

阪神高速道路株式会社 技術審議会

技 術 審 議 会 資 料

No.2

日付 平成26年7月30日

平成25年度 技術審議会 議事要旨（案）

平成26年7月30日

阪神高速道路株式会社

阪神高速道路株式会社 平成 25 年度 技術審議会
議事要旨

日時：平成 25 年 4 月 4 日（木） 15:00～17:40

場所：ホテルグランビア大阪（20F 名庭）

出席：委員長：大西 有三（京都大学名誉教授）

委員：宮川 豊章（京都大学 大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 教授）

松山 隆司（京都大学 大学院 情報学研究科 知能情報学専攻 教授）

小林 潔司（京都大学 経営管理大学院 教授）

朝倉 康夫（東京工業大学 大学院 理工学研究科 土木工学専攻 教授）

河野 浩之（南山大学 情報理工学部 システム創成工学科 教授）

依田 高典（京都大学 大学院 経済学研究科 教授）

議事：

- 1.会社挨拶
- 2.会長挨拶
- 3.委員紹介
- 4.技術委員会の再編と今後の審議方針
- 5.阪神高速の現状等について
- 6.各技術委員会のこれまでの報告と今後の活動方針
- 7.質疑応答
- 8.阪神高速道路（株）に期待すること
- 9.その他

主な意見：

- ・ 個別に議論してきた各技術委員会を、今般一つにまとめた意義は大きい。
- ・ 各技術委員会の共通部には、大きな残されたテーマ、これからの改革すべきテーマがあるように思うため、今後はこの重なっている部分、これの掘り下げを行ってほしい。
- ・ たとえば、構造技術と交通技術の分野で見た場合、大型車が構造物に大きなダメージを与えていることに関して、大型車と普通車の車種別の交通流のあり方、それに見合った高速道路料金の考え方や、あるいは高速道路を大型車が通行することによって一般道へのダメージを軽減していることに対する阪神高速が果たしている役割等の議論についても重要なテーマとなる。
- ・ 3つの技術委員会の共通課題をどうビジョン化していくか、高度化できるような研究テーマ、技術といったものをこの技術審議会で議論して欲しい。
- ・ 3つの技術委員会共通のものとして、色々なものをセンシングするというセンシング技術が考えられ、それぞれの技術分野に存在する。
- ・ 各委員会が並列で、また委員会の中でも課題が並列になっていて、どれが重要で、どれが重要でないかが分かりにくい。

- これからの検討課題も委員会順に並んでいるように見受けられるが、どれにターゲットを絞ってどれを中心に検討していくのか。
- 各委員会において、縦断方向に展開している議論を横断方向にも展開してもらいたい。
- ETCに関して、アドバンテージがあるうちに、自動車を通じてどこで乗って、どこで降りているのかという情報を他の事業体ビジネスとつなげてWINWINの関係を構築していくのが非常に重要になっていく。
- 日本の法規制の中で考えた交通システムというものがなかなか海外では受け入れられないが、海外の技術展開に関して、これから検討していくのであれば、今までと全く違うものを考える必要がある。
- これからの将来に都市高速サービスがどういうものかということの大所高所から考える必要がある。
- 今までではどちらかというとサプライサイドの視点であったが、ユーザーニーズの視点、あるいは都市高速を使ってどういう生活が可能なのか、新しいニーズを作っていく、そういった視点での検討が必要。
- 技術戦略には人材の育成というものが書かれているが、海外展開では相手の企業を育てるくらいにやらないといけない。
- 海外技術戦略は時間がかかるものであるが、一方で待ったなしの状況にある。
- 技術者に対して、技術研究開発にふさわしい予算、身分、名誉を与えているのかどうか。
- 技術者が良い仕事をする阪神高速の組織が長寿命化されることを期待している。
- 日本の制度の中で業務を実施した上での発想だと、全く異なる海外の環境下でマネジメントビジネスは成り立たない。
- これからはセンシングしてデータを取得して、そのデータをどのような形で分析するかをきっちり押さえるということは必要である。
- グローバルな展開を考えた場合、知財戦略がないと優位性は保てない。
- それぞれの委員会の中でそれがどういう形で将来の経営につながっていくかという視点での検討は通常行わないと思うが、その部分を会社全体でどう考えていくかということが今後重要である。
- たとえば災害時にこれだけの貢献ができるということを、外に対してしっかりと発信できるようになれば社会的にも受け入れられることになるので、広い立場から会社の必要性和意義を伝えていければよいと思う。

以上